

地域景観セミナー in 光  
「どうして景観って大切なの？」

山口県景観アドバイザー 岡村 和典 氏



平成17年10月15日  
光市室積公民館

景観とは、ということですが、景観法の基本理念の中には「国民共通の資産」と書いてあります。今まで、景観というのは私有権の及ぶ所だったので、皆それぞれに好きなようにしても良いみたいな感じがあったのですが、「国民共通の資産」という事になると、多少私的な権限を制限してみても良いというニュアンスがあるのかなと、非常に感動したところです。

国民共有、「みんなの財産なんだ」だからそれを「みんなで大切に守りましょう」という思いがすごく込められていると思います。

それから、基本理念の中には、「地域の自然、歴史、文化など人々の生活、経済活動の調和によって」とありますが、一つがどう突出するわけではなく、一つがどう優れているわけでもない地域でも、コミュニティの中で全体の文化的総和として、景観をどう守っていくかが大切ということですね。

さて、今の日本の景観は非常に危機的で、山口も同様に危機的ではないかと思っています。例えば、これは山口市のある景色ですが、今まで盆地で緑に囲まれた美しい所だったのですが、電柱や乱立する屋外広告物などが道路サイドに非常に沢山出現しています。また、背景が緑の山々なのに、突然奇抜な色の建物が建っています。何かこう、非常に痛々しい荒んだ空気をも感じ、危機感を持っています。

景観というのは、かなり主観的な面があり、ある対象に対して個人が景観をどのように享受していくか、つまり、景観というものをどういう風に自分の中で解釈していくかというときに、自分の感性や価値観、歴史や文化性などで認識していくことになります。

『山があるから山の景色があるのではない、その景色として山を見るから山の景色があるのだ。』という有名な言葉が非常に象徴的だと思いますが、景観とは客観的な物体がただあるだけでは景観とは言えず、それを主観の中でどう解釈するかが、景観だということです。

だからこそ、景観というのは難しく、評価が分かれるところで「人工物と山が上手くとけあって良いね。」とか、あるいは、「山の緑と海の青さがなにか感じが良いね。」とか、いろんな考え方があります。対象に対して自分の歴史とか自分の思い出とかを重ねて見るわけですから、景色とか景観というものは文化的な事象だと思います。若い人には若い人なりの新しい景観の解釈があり、年配の人には昔からの風景に懐かしい感情があり、認識の違いやズレがあるわけですが、それをどう自分の中で蓄積しながら、他の人とある妥当な評価でコンセンサスを得ながら共有化していくということが重要です。つまり、主観を共有化した時に、地域の総和として景観が注目されてくるということなのです。

「ルビンの杯」を見ていただくと、「図」と「地」が反転するようなカタチで見えると思います。ある美しい景観の中に建物を入れた場合は、その建物は、周りの美しい景色によって引き立つこともできますけれども、その建物がある事によって、周りの景色を台無しにするという事もあります。

美しいモノを美しい自然の中に入れると一層美しく見えるというものもあれば、不快なモノになることもあり、紙一重だと思います。紙一重でありながら、景観の認識というのは、主観性、つまり評価軸が幅広いため、注意しなければならないと思います。

私も建築をやっていますから、自分達がやっている行為が、「その地域の景観に妥当なのか」、「調和できるものなのか」、「景観を殺しているのか、引き立てるのか」、「共に美しい景観をつくってい

るのか」、まさに、これは紙一重の行為ですから、注意しなければいけないと考えています。非常に微妙なのです。

景観というモノが大体どういう風なニュアンスをもっているかということですが、景観を要素的に捉えていくとすると、わかり易いのではないのでしょうか。

例えば、全くの自然の風景がありますよね。手つかずの自然の風景、我々人間というモノは、自然界から発生しているわけですから、本能的にそれは美しいと思うのではないのでしょうか。

ところが、自然風景に構築物という構成の景観から、微妙になってきて、その美しい風景の中に何か自分たちが加工する、構築するという行為の中で問題が起こってきます。

これは、先程の「ルビンの杯」のように、「地」の中に投入する「図」みたいなモノというわけです。例えば、農漁村風景のように、自然があって、その中に棚田があり、農家があるという自然の中に永い時間をかけてうまくとけ込んでいる様なところもあれば、道路というかなり直接的な人工物を入れることもあります。また、歴史的建物など構築物の度合いが強いのですが、時間的経緯とか、非常に緩やかな文化性を持ちながら進んでいるもので我々が自然風景の中に入れる際にわりと許容できているものもあります。

この自然風景の中に構築物をどう入れていくか、その入れていく度合いの調整が、今、非常に乱れていて、この構成が景観破壊ではないかというグレーゾーンだと思うのです。

ここのゾーンを我々は注意しなくてはならないし、調整、調和は不可欠であるという風に思っているわけです。

人工風景は都市景観が多いのですが、都市景観だったら注意しなくて良いという話ではなくて、アメニティの高い都市空間をつくっていながら、そこに突然不似合いなモノが出てくることもありますので、注意しなければいけないということです。

建築の中に、ランドスケープという言葉があるのですが、それは構築物と周囲の調和を目指して処理するという事なのですけれども、そのランドスケープの中に、景観調整材料として、緑とか水とか自然のモノがあります。つまり、我々は、自然風景は癒されるとか、調和できると考えているわけですから、そういう自然の要素を有効に入れて行くことが重要ではないのでしょうか。

これから、景観を配慮するときには、建物だけではなくて、その周辺の敷地周りのランドスケープにも注意しなければいけないことを自戒しつつお話ししたいと思います。

農漁村風景や歴史的な景観というものは、人の営みがありながら、美しい風情だという認識は、長い時間軸の中で、認めているわけですね。

漁村風景には、構築物もあるのですが、自然共生的なつくりをしていますから、美しく、穏やかに感じます。

都市景観にも、看板とか雑多なモノが出てきますが、それは、都市の限界性とか賑やかさとして、我々は多少の許容力があります。

ただ、その都市のアイデンティティというのがありますから、それに注意しなければなりません。盛り場とか飲み屋街だけの話ではなく住宅地もあるわけですからね。

例えば、都市の中に現代的な建物を入れる場合、多少の許容はありますが、既存の街並みに調和

する必要があって、特に住宅地についてはその必要があると思っています。

景観ってどうして大切なの？というお話なのですが、それは景観に無頓着で、改善されずに放置すると、ちょっと極端ですけども、モラルの低下が起こるわけです。

例えば景観が悪化すると、「ゴミなんかも捨ててもいいや。」とか、「タバコの吸い殻を落としてもいいや。」とか、「落書きしてもいいや。」とか、そういうふうな事が起きるわけです。

逆に言えば、景観の悪化は、そういうことがどこかに潜んでいます。例えば、川が汚れているとか、山がゴミの山になっているとか。だから、環境問題と非常にパラレルな話であり、だからこそ、国もかなり危機感を持ったのではないのでしょうか。

あとですね、一番大きいのは、美意識の低下だと思っています。

美意識というのは主観の問題だから、色々レベルがあると思いますが、明らかにコレはちょっと酷いんじゃないかというものが、結構あると思います。

ところが、そういうモノを見ていると、テレビを見ているみたいに、いろんな色彩とか、形とか、雑音的に入ってくることをどんどん受けていると、たぶん、若い人は特に雑多なモノと美しいモノというのを区別できなくなるのではないかと私は思います。

現代美術は、かなり極端なモノを鑑賞し、文化性として捉えたりするけれども、それは美術館の中であれば、ある限られたところでやれば文化の多様性として受忍できます。

しかし我々は、景観を避けられない、社会的な風景の中にいるわけですから避けられないわけですね。避けられないモノにかなり酷いモノがあると、慣れてしまい、何が美しいのか、何が感動的なのかっていうのが怪しくなる。ここに、非常に大きな問題があるのではないかと私は思います。

そういう風にネガティブに考えていくと、治安が悪化するとか、汚れている所に暴走族が来たり、ゴミがどんどん捨てられたりするとか、もっと汚していいやとか、という話になります。

景観というのは文化的事象と言いましたが、一番大切なことは、コミュニティそのものがしっかりしていれば、景観は保たれると私は思います。つまり、景観は、地域社会の大きな指標ではないかと考えます。

非常にデカイ看板で、自分の所が売ればいいというような景観、エゴイスティックに儲ければいいとか、効率的であればそんなお構いなしという風な、今の時代かなりそういうところがあります。

要するに、景観というのは、心象的な文化性ですから、それを守らなければ世の中が荒んでしまうのに、もう全部、金、カネ、カネ、儲ければいい、目立てればいいっていう世相なんです。

だから今、景観をなんとか守らなければいけないと思うのです。

あえてネガティブな話をますが、景観がメシの種にもなるわけじゃなく、誰も被害を受けるわけじゃない、健康を害するわけでもない。ですが、やはり景観は大切なのではと思うのです。

荒んだ景観の中で見慣れてくると、美しさの基準がわからなくなり、情緒的に不安定になるのではと思います。つまり、生きる力というのは、美しいモノを美しいとして感動して、ああそれで、やっぱり生きる喜びが出てくるという面があると思うのです。

確かに、美には色んな尺度がありますが、古典的な美とか、歴史的に学んだ美というのは、ある

コードというか、基準を持っていると考えます。そういうモノが、どこか我々の体内の中に入っていて、連々として受け継がれると思うのです。だからこそ、一方向的な美の基準を押し付ける危険性を考慮しながら、景観に対して美の判断を積極的にしてもよいと考えているのです。

景観とは、人の営みとか社会のある種の写像というか、世論ですよ。世情がそうだから、こうなっていますよという話が、景観の中にも端的にも出てきています。何でもいいや的な話になっているところが似ていると思います。

環境問題も先程話したとおりですが、荒んだ景観、汚れた風景であって、汚れた空気、自然破壊された海、河、山、或いは、喧騒があると思うのです。

環境に無関心というか、エネルギーの浪費など、そういう方向を許容していると、悪いほうに結びついていって、環境は、より悪化する、災害は非常に多発して、温暖化の話もあって、今大変な豪雨とかですね、大型台風とか発生してますけれども。ひいては、やはり、そういう風な、今度はハードな所に影響してくるのではないかと思う。アメニティの欠如ってというのは、非常に今、環境問題から直接いわれています。

コミュニティについては、しっかり形成していれば景観問題も、かなり保たれるのではないかなと思うのです。荒んだ光景というのは、手入れのされていない風景、つまり、落書きとか、ゴミがあったり、壊れたものをそのまま放置しているとかいったことがあります。

『割れ窓理論』というのがあります。ニューヨークで犯罪の温床だった所があって、ビルの一つの窓が割れているのを見過ごしていると、どんどん窓が割れていってスラム化するというお話です。これを、一つの窓が割れた時に、修繕して、キチッとメンテしてあげると、そこはスラム化しないというような話があります。それから、アメリカのビバリーヒルズで、非常に手入れされた自動車と窓硝子を一枚割れた自動車を路上に置いていると、手入れされた車の方は全く無傷なのに、窓硝子を一枚割った自動車は、たちまち全ての窓硝子が割れて、中の部品が取られ、タイヤが無くなったという実験があります。つまり、景観も同じだと思うのです。

成熟社会の中では、景観は「あそこにアノ建物が在ったね。」「おばあちゃんの時にもその建物が在ったね。」という、語り継ぐ何かがあるという優しさがあるべきと思うのですが、そういうものが、一掃されて違うモノが突然と入ってくると、自己喪失感と違和感があります。馴染めないというのが、つまり、優しくない町並みになったということだと思うのです。お年寄りにとっては、懐かしさというのは、その本人のアイデンティティです。再開発というのがそうですけれども、スクラップ&ビルドとして、まちなみを変えてしまうから、その町に対する思い入れがない、コミュニティが無くなる、優しくない風情になるわけです。

地域活性化については地域のアイデンティティが重要だと思います。この室積にも、自慢のモノがあると思うのですが、どうしてもグローバル化現象になりがちで、どこでもあるような、店舗が出てきて画一化、均一化してしまい、どこでもあるような景観になってしまう。これは、非常に注意しなければいけないと思います。今からの時代は地域間競争で、地域の個性で元気にならなければいけないのに、活性化しなければいけないのに、たとえば市町村合併などの要因で均一化してし

まうのは避けなくてははいけない。

地域がそれぞれ特徴を持って、街の自慢がないと、地域間交流が不在となるわけです。

やっぱり人というのは、ちょっと風情のあるモノとか、変わったモノがあるかと思ってみようかなと、購入してみようかなと思います。それが、観光の原点です。

景観というのは、その地域にしかないたたずまいをもっているわけですから、地域のアイデンティティと密接に絡んでおり、景観って大切だなと言ったのは、メンタルな話ですけど、実際地域活性に、かなり大きな要因を持っていると思います。

「景観ってどうして大切なの？」という話に戻りますが、景観から我々は逃れる事が出来ないからです。我々は、景観を見せつけられているわけで、「汚いね。」「不快だね。」と感じても、景観から逃れることが出来ないのです。

テレビや本は、「見たくないな。」「不愉快だな。」と感じたら、見ないことができます。表現の自由があるかわりに、我々は選択の自由権もあるわけです。

でも、景観については、我々は、見せ付けられて選択出来ないのです。表現の自由があるところには、選択権があってもいいはずなんだけど、選択権が無いって言うのが、景観の問題なのです。

私が、さっき言ったように、私的財産の多少の制限があっても良いんじゃないかというのは、表現の自由と言いながら、何でもやっていい、赤い色とか、黄色とか、デカイ物、自然の景観の中に、おどろおどろしい建物を建てて、見せ付けられることは制限されてもいいと考えます。

景観は、地域社会の有様の写像と言えるので、コミュニティの形成、優しい豊かな社会づくりを目指すことが重要なのです。美しい景観を、その地域で作りましょうねというと、活動を通じてコミュニティも結束して豊かなコミュニティが形成できる。美しい景観にもなる。美しい景観が出来れば、より豊かな住環境が出来て、よりコミュニティの育成が進み、景観も良くなり循環して行くと思うのです。だからこそ、景観は重要じゃないかと思っています。

室積の海商通りについても、地域コミュニティをどう守り育てていくかということから、美しい景観を実現し、実現する事によって、より豊かなコミュニティが形成されていく、というように順繰りだと思うのです。

これまでネガティブな話をワザと言って、景観というのは、こういうところで、注意しないと、大丈夫かな？大切だよと、ちょっと偏った話をしてきましたが、今度はポジティブに考えてみる話しをします。

たとえば景観が良くなるという現象が起きたとき、さっきの循環の話のとおり、安心の住みやすい地域づくりが少し出来ると思います。まあ、これは少しであって、全てではない。あくまでも、事象ですから。コミュニティの形成、良好な住環境、環境的にも少しよくなり、バリアフリーのまちづくりにも少し関係する。

アイデンティティのある、誇れるまちづくりが少し出来てきて、地域活性が生まれて、豊かな地域社会が生まれて、交流人口が増えて、観光に繋がる。

そうすると土地資産価値が上がるとか、事業生産物の付加価値が付くとか、ここまですぐと経済的な話として儲かる話だから、なにかメリットがあるのかなって話しになるわけです。

しかしながら、ちょっとこれは、？の所もあるわけですが、このようなベクトルで活動している所もあるわけです。美しい農村景観の中に何々産のものをイメージアップして売り出しているとか、何にも無い所なんだけれども、水辺景観にチューリップ祭りをして、チューリップで町興しをしているというところもあります。そうするとそこで、道の駅ができたり、特産物が売れたりして、活性化にもなるわけです。今、全国の地域間で活性化のための努力をしています。それは、その街を、みんなが愛して、自分の街の宝を守って、それを全国に発信して、地域活性に繋げようっていうことですね。

最後になりましたけれども、私は、景観はまちづくりの社会的事象である、つまりコミュニティ形成の要であると思っています。

景観は、共有の社会的文化財産であると思っています。ですから、私的権限の制限が少し行われても仕方がない、我々が避けて選択する事が出来ないのだから、共に文化的財産として配慮すべきであると思うのです。

また、景観は、場所と時によって、具体的に論じなければいけないと考えます。

「いろんなモノが出来たら賑やかで良いじゃないか。」とか、「マンションが出来たら賑やかでいいじゃない、人が増えて良いじゃないか。」というのは一般論ですが、その場所に本当にマンションが出来て良いのか、「マンションが出来たら一時的に人が増えるかもしれないけれども、全体としてイメージダウンして荒れた街になって寂れて行く。」長期的に捉えると、そういうことだって起こるわけです。景観を一般論で論じると常に曖昧になり焦点が拡散する恐れがあります。時と場所について具体的に把握する必要があります。だからこそ、地域のコミュニティがしっかりと自分たちの町の景観を具体的にとらえておかなければいけないと思うのです。

山口の景観は、非常に危機的だと思います。

仕事場が福岡にありまして、良く週末に山口に帰ってくるのですが、山口、非常に美しい景観を持っている所で、今まで、ほっとしていたのですが、この頃は、もう驚くことが多くて、どんどん加速度的にですね、ド派手なというか、大変な風景が出来ているなと感じています。

是非、皆さんに、一生懸命、景観に関心を持って頂きたいと思っています。

それから、良い景観は、地域社会の財産であって、失ってしまえば、再び戻ってこない地域の宝なのです。

ですから、皆さんに、ぜひお願いしたい。景観に関心を持って、配慮して、育成する事が、非常に大切だと思う。これは、一人一人の意識の問題で、自分たちの町を愛して誇りに思うことからではないでしょう

例えば、口コミでもいいから、「あれは良いね」「アレはちょっとおかしいんじゃない？」、「アレはこうだよ」というような事を日常お互いが話し合ったり、協議したりして欲しい。そういうことが景観に関心を持ち育成するために非常に重要な動きではないかなと思っています。

強く、危機感を持っているだけに、もっともっと、地域の方が、自分たちの街を愛されて、誇れるものを、大切にして、育てていただければと願っています。

どうも、長い間有難うございました。